

令和5年3月 気仙沼商工会議所 景気動向調査 概要版

(令和4年度第4四半期：令和5年1月～3月期実績、令和5年4月～6月予測)

全業種値でマイナスの値。業況に若干改善を予測するも、採算は横ばい

製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業・水産加工業に属する会員の中からそれぞれ6業種より20事業所ずつ合計120件を対象とし、うち99事業所(回答率82.5%)より回答。

調査項目は、①業況(自社)②売上額(建設業は完成工事(請負工事)額)③採算(経常利益)④資金繰り⑤従業員(含 臨時・パート)⑥経営上の問題点について調査を行った。

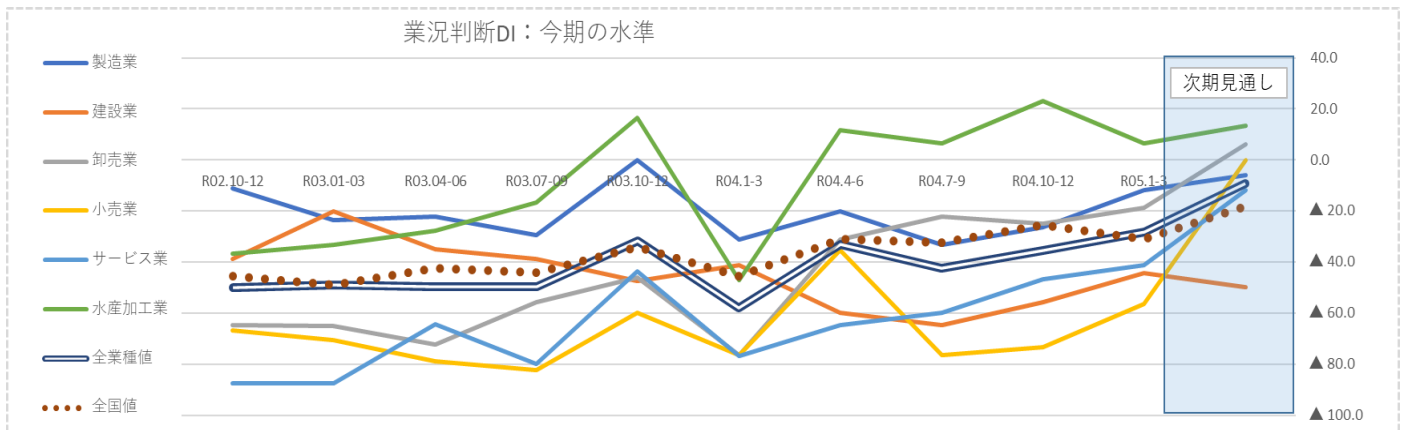
☆分析方法…【DIとは「増加(上昇、好転)」と答えた企業割合から「減少(低下、悪化)」と答えた企業割合を差し引いた値です。DIは0を基準としてプラスの値は景況が上向き傾向の企業割合が多いことを示し、マイナスの値は景況が下向き傾向の企業割合が多いことを示します。

＜前回値と比べ「好転↑」・「不変→」・「悪化↓」で表示＞

	業況DI			採算DI			従業員DI		
	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通
	1月～3月	昨年1月～3月と比較	4月～6月予測	1月～3月	昨年1月～3月と比較	4月～6月予測	1月～3月	昨年1月～3月と比較	4月～6月予測
全業種値	▲28.3 ↑	▲14.1 ↑	▲9.1 ↑	▲22.2 ↓	▲24.2 ↓	▲19.2 ↑	▲13.1	▲9.1	▲9.1
①製造業	▲11.8 ↑	▲17.6 ↑	▲5.9 ↑	±0.0 ↓	▲23.5 ↑	▲11.8 ↑	±0.0	▲11.8	▲5.9
②建設業	▲44.4 ↑	▲33.3 ↑	▲50.0 ↓	▲27.8 ↑	▲33.3 →	▲55.6 ↓	▲5.6	▲11.1	▲11.1
③卸売業	▲18.8 ↑	▲6.3 ↓	6.3 ↑	±0.0 ↑	▲12.5 ↓	±0.0 ↑	▲12.5	▲6.3	12.5
④小売業	▲56.3 ↑	▲43.8 ↑	±0.0 ↑	▲68.8 ↓	▲43.8 ↓	▲18.8 ↑	±0.0	▲12.5	▲18.8
⑤サービス業	▲41.2 ↑	▲5.9 ↓	▲11.8 ↑	▲41.2 ↓	▲29.4 ↓	▲23.5 ↑	▲41.2	▲23.5	▲35.3
⑥水産加工業	6.7 ↓	26.7 ↓	13.3 ↓	6.7 ↓	±0.0 ↓	±0.0 →	▲20.0	13.3	6.7

※従業員DIは、プラス値で過剰、マイナス値で不足を表す。

【業況判断(業況DI)】

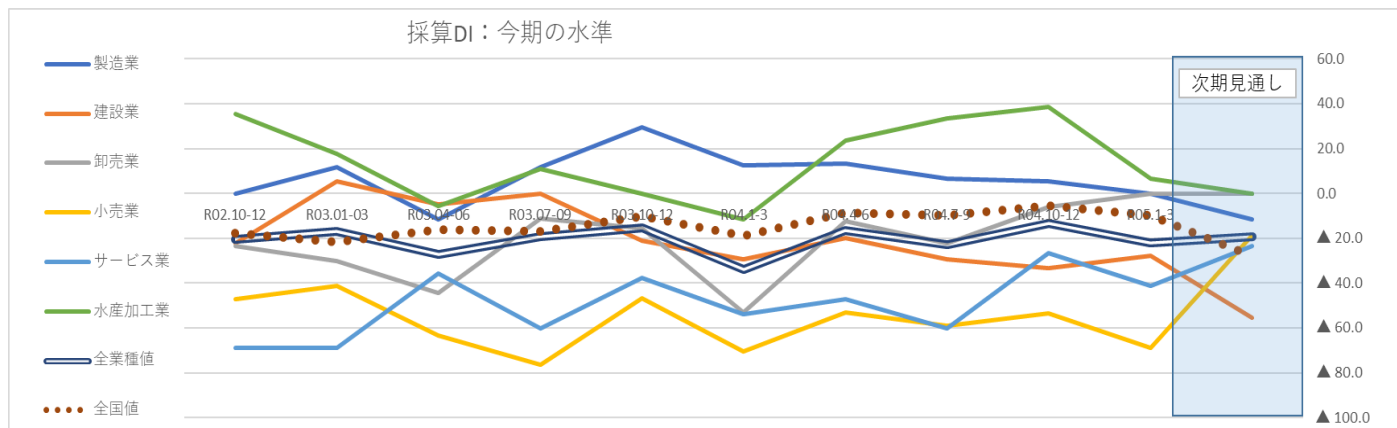


○業況DIの全業種値は、当期の水準が▲28.3、前年同期比が▲14.1であった。当期の水準の全業種値は2期連続でマイナス幅が縮小した。要因として、「メーカー側での営業活動が再開」「コロナが落ち着き、需要が回復しつつある」「来期はカツオの漁が期待できると予想」等の回答があった。

当期の水準を業種別で見ると、「小売業」▲56.3、「建設業」▲44.4、「サービス業」▲41.2を示す等、「水産加工業」を除く5業種でマイナスを示し、DI値のマイナス幅は縮小傾向であるものの、依然として厳しい結果となった。

○次期見通しについては、全業種値で前年同期比▲9.1と、当期の水準よりマイナス幅は縮小し、業種別で見ると「製造業」「卸売業」「小売業」「サービス業」のDI値が前回値より改善し、全業種値ではマイナス幅は縮小する見通し。

【採算D I】

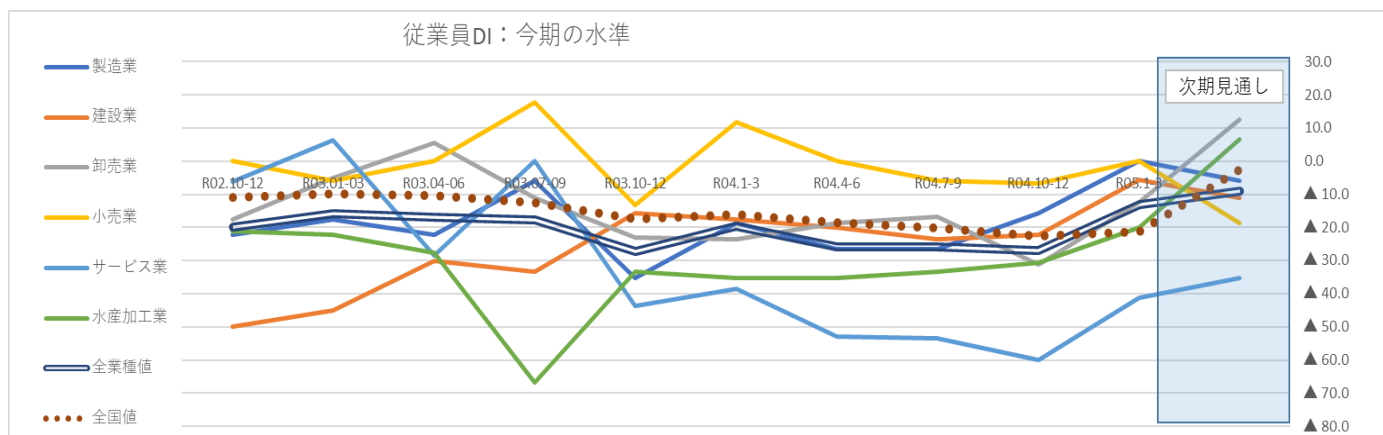


○採算D Iの全業種値は、当期の水準が▲22.2、前年同期比が▲24.2 となり、当期の水準のD I値は「小売業」で▲68.8、「サービス業」で▲41.2 を示し、前回値と比較すると「水産加工業」で-31.8 ポイント、「小売業」で-15.4 ポイント減少する等、採算の悪化を示した。「材料費、電力料金の値上げ」「さば、いわし、もうか、さんま等の漁獲が減少、もしくは価格が高騰」等の声があり、コストの増加から採算悪化を懸念する意見が寄せられた。

○次期見通しについては、全業種値で前年同期比▲19.2 となり、業種別で見るとD I値は「小売業」で 0.0 (+25.0) と改善を見せる一方、「建設業」の▲55.6 (-16.7) と悪化を示した。

また、「官民ともに需要が停滞。特に民間が顕著」「材料費、労務費、外注費、経費、どれも上昇している」「デジタル化をうまく利用したいが問題がある」等の声があり、全業種値のDI値は横ばいではあるものの、先行きを不安視する意見が多数寄せられている。

【従業員D I】 ※従業員DIは、プラス値で過剰、マイナス値で不足を表す。



○従業員DIの全業種値は、当期の水準が▲13.1、前年同期比が▲9.1 となり、前回の水準▲27.1 から改善する結果となった。業種別で見ると、「サービス業」は前回値では▲60.0であったが▲41.2 と依然不足を示しているが改善が見られた。「技術者の継承に伴う従業員の確保が難しい」「人員不足と高齢化」等の声がある一方、経営の問題点では「従業員の確保難」の項目が減少傾向にある。

○次期見通しについては、全業種値で前年同期比▲9.1 となり、「サービス業」では▲35.3 と大きく不足を示したものの、「卸売業」「水産加工業」では増加に転じており、不足度合いが弱まる予測をしている。

【経営上の問題点について】…問題点は各業種によって異なっているが、上位は「9.原材料費・人件費以外の経費の増加」48件(17.7%)・「17.需要の停滞」42件(15.5%)・「6.原材料価格の上昇」39件(14.4%)・「11.材料等仕入単価の上昇」32件(11.8%)・「8.人件費の増加」25件(9.2%)の順となった。(99事業所 回答271件・重複回答可)

〈製造業の主な問題点(回答17事業所)〉

「6.原材料価格の上昇」が14件(82.4%)と突出して多く、「9.原材料費・人件費以外の経費の増加」が7件(41.2%)、「4.生産設備の不足・老朽化」が4件(23.5%)と続いた。

〈建設業の主な問題点(回答18事業所)〉

「3.資材・材料価格の上昇」「16.民間需要の停滞」がともに14件(77.8%)と最も多く、「15.官公需要の停滞」が10件(55.6%)と続いた。

〈卸売業の主な問題点(回答15事業所)〉

「10.仕入単価の上昇」が13件(86.7%)と最も多く、「8.人件費以外の経費の増加」が10件(66.7%)、「15.需要の停滞」5件(33.3%)と続いた。

〈小売業の主な問題点(回答16事業所)〉

「9.人件費以外の経費の増加」が9件(56.3%)と高く、「16.需要の停滞」が7件(43.8%)、「11.仕入単価の上昇」が6件(37.5%)と続いた。

〈サービス業の主な問題点(回答17事業所)〉

「8.材料等仕入単価の上昇」が12件(70.6%)と最も多く、「6.人件費以外の経費の増加」が8件(47.1%)、「5.人件費の増加」が7件(41.2%)と続いた。

〈水産加工業の主な問題点(回答15事業所)〉

「6.原材料価格の上昇」「9.原材料費・人件費以外の経費の増加」がともに11件(73.3%)と最も多く、「7.原材料の不足」「8.人件費の増加」がともに7件(46.7%)と続いた。

その他(主な回答を抜粋)

製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・材料費、電力料金の値上げにより経営負担が増している ・製造部及び事務職に若い力を求めている ・電子部品や材料が入ってこない ・魚が少なくなってきているので客先がとまっていた設備意欲が下がっている
建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・官民共に工事案件が極端に減少していること・労務、及び資材価格の高騰・基幹技術者の不足 ・技術者の継承に伴う従業員の確保が難しい ・市が新年度から実施予定の新たな入札制度により、市外の業者も含めた競争が見込まれる
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の緩和により人出に期待する ・ふるさと納税で売上 ・販路開拓支援 ・水道料、電気料、重油料の大幅な値上げが収益を圧迫 ・容器、資材等の大幅、急激な高騰 ・販売店の増加、同業者の減少
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが落ち着き、宴会需要が回復することを期待する ・まだまだ小売業界は売上低迷が続いている ・コロナ後の経済対策に期待 ・コロナ明による人流増加に期待
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染者が少なくなり、旅行者の増加がみこめる。出張等も多くなると思う ・デジタル化をうまく利用したいが問題がある ・人員不足と高齢化 ・借入資金の利息の増額(コロナ融資の無利息期間の終了)
水産加工業	<ul style="list-style-type: none"> ・来期はカツオの漁が期待できると予想されている事 ・三陸ブランド商標で展開している製品の原料(さば、いわし、もうか、さんま等)の漁獲が減少、もしくは価格が高騰 ・原材料の高騰、電気料金アップ